

平成28年度第1回富士見市いじめのない学校づくり委員会  
会議録要旨

【日時】平成28年6月6日（月）14:00～16:30

【開催場所】富士見市教育委員会会議室

【出欠状況】

小林	大熊	塚田	瀬川	長堀
○	○	○	—	○

【事務局】

教育長 学校教育課長 指導主事

【次第】

1 開 会
2 教育委員会あいさつ
3 委員長あいさつ
4 議 題（協議事項）
（1）報告事項
・平成27年度富士見市立学校におけるいじめ等の状況について
・平成28年度の取組について
①富士見市共通「学校生活アンケート」について
②学校いじめ防止方針の見直しについて
③いじめのない学校づくり子ども会議について
④教員の資質向上について
⑤平成27年度児童生徒の問題行動等調査生徒指導上の諸問題に 関する調査および埼玉県教育委員会作成の25事例について
5 事務連絡
6 閉 会

【議事】

- 1 開 会
- 2 教育委員会あいさつ
- 3 委員長あいさつ
- 4 議 題（協議事項）
  - （1）報告事項
    - ・平成27年度富士見市立学校におけるいじめ等の状況について
    - ・平成28年度の取組について
    - ①富士見市共通「学校生活アンケート」について
    - ②学校いじめ防止方針の見直しについて
    - ③いじめのない学校づくり子ども会議について
    - ④教員の資質向上について
    - ⑤平成27年度児童生徒の問題行動等調査生徒指導上の諸問題に  
関する調査および埼玉県教育委員会作成の25事例について

(平成27年度富士見市立学校におけるいじめ等の状況について)

【委員】なぜ文科省の児童生徒の問題行動等調査生徒指導上の諸問題に関する調査の発出は遅れたのでしょうか。

【事務局】理由は定かではありませんが、文科省と他省庁の調整に時間がかかったのではないのでしょうか。

【委員】何か調査で変わった点がありますか。

【事務局】不登校の調査が詳細になりました。全欠の児童生徒や出席10日以下など、細かく報告することになりました。

【委員】全欠の生徒に担任が会うことで、虐待事案などの発見につながる可能性があります。全欠を放置しないようにした方がいいです。担任が会いに行った時に会えないなら、子どもが会うことを拒否している理由をしっかりと考えるべきです。

【事務局】保護者も担任が会いに来てくれることを欲しているケースが多いと思います。まずは担任が足を運ぶことから始めたいと思います。

【委員】本人に会えなくても、保護者を伝言板にして「先生がこう言っていたよ」と伝えてもらうだけでもいいのです。ずっと引きこもっていた子が、明日担任が来ると聞いただけで、ずっと風呂に入っていなかったのに風呂に入ったという事例があります。結局会えなかったのですが、そのようなアクションをするだけでもいいのです。

【委員】不登校の原因が担任との関係にある場合は、学校はどのように対応していくのでしょうか。

【事務局】家庭訪問は担任に限った話ではないので、相談員やスクールソーシャルワーカーや部活顧問など、様々な手立てを考えていきます。

【委員】小中連携支援シートでも、初日に登校しなかった生徒には必ず家庭訪問しようとなっているはずです。4月8日や始業式に欠席した生徒には必ず家庭訪問をした方がいいと思います。前年度ほぼ全欠に近い子どもでも、放置せず、新しい担任が関係を築くという意味でも家庭訪問は重要です。

(富士見市共通「学校生活アンケート」について)

【委員】「この学年になってから」というのであれば、複数回実施すると、変化を見ることができます。

【委員】「いじめゼロ」と言うならば、保護者が全員納得するかどうかがかギです。いじめの相談などが1件でもあれば、「いじめゼロ」とは言えないはずです。いじめが初めからゼロではなく、対応してなくなったと言えればいいのです。

【委員】学校を休んでいる子はアンケートはできないのではないのでしょうか。

【事務局】欠席している子もひよっとしたらいじめを苦に欠席しているかもしれません。学校には欠席者にもアンケートを届け、実施するよう指導していきま

す。

【委員】 2回実施するなら、6月、11月に「この学期になってから」でもいいかもしれません。同じように2か月くらいでの件数が把握できます。

【委員】 「いじめをなくし」という文言は不要かもしれません。いじめのアンケートだということではなく、「みんなが安心して生活できるように」というスタンスでよいのではないのでしょうか。

#### (各学校のいじめ防止基本方針の見直しについて)

【事務局】 基本方針のスリム化とアンケート後の対応について明確化させていきたいと考えています。

【委員】 アンケートをしたらどうするかということが大切です。あれもこれもというのは無理があります。

【委員】 生徒指導主任たちで、「うちの学校ではこれを大切にしていこう」とか「富士見市としてこれだけはがんばる」というのを決めてもいいのではないのでしょうか。

【委員】 若い生徒指導主任であっても、当面、何を大切に取り組んでいくのかというのを明確にさせ、説明させていくと力がつくでしょう。

#### (いじめのない学校づくり子ども会議について)

【事務局】 11月14日にいじめのない学校づくり子ども会議があります。昨年度は「どこからがいじめかわからない」とか「いじめられる側にも問題がある」とかという発言がありました。子どもたちに自由に考えさせ、討議させることの難しさも感じています。

【委員】 スマホの使い方について15秒のCMを作るという取組があります。いじめについて考えさせる内容になっています。そのような作業をする中で考えたり、心に残ったりするものになります。

【委員】 子ども会議だけで終わりにせず、来年のポスターのキャッチコピーを考えさせる。そうすると発想法のトレーニングにもなります。

【委員】 What to say.ではなく、How to say.で考えさせると子どもたちにとって心に残るものになるのではないのでしょうか。

#### (教員の資質向上について)

【事務局】 4年計画くらいで全教員を対象にアクティブラーニングの視点も盛り込んで人間関係づくりについて考えさせていきたい。

【委員】 研修は受け身のものが多くなってしまいます。ワークショップ的に動きながら考えていく研修を多くした方が資質向上につながるのではないのでしょうか。

【委員】県や国からやりがいのある仕事が降ってきているのでしょうか。研修や新しい手法は精査し、形骸化しているものなど、やめる勇気も必要ではないのでしょうか。

(埼玉県教育委員会作成の25事例について)

【委員】この事例集はもう少し精査した方がいいかもしれません。「このような場合はいじめではない」と言い切ってしまうのでしょうか。あくまでも「いじめだ」と訴えてきた子の心情に寄り添わなければいけないのでしょうか。

【委員】これをバイブルにして、線引きに使うのは危険かもしれません。「いじめはあってはいけない」という空気が日本にはあります。いじめは発達途上には必ずあります。あってはいけないのはいじめを苦に自殺するようなことです。

【委員】これがいじめか否かではなく、その後どのように対応するかを考えさせるといいでしょう。

【委員】議論の出発点としてこの事例集があるのはいいことですが、この事例集に照らし合わせて「いじめじゃないから大丈夫」と済ませてしまうのは危険だと思います。

【委員】安心して学校生活を送れるようにしてあげることが大切なのであって、線引きが重要なのではないと思います。子どもから見たら区別のつかないことが多いのではないのでしょうか。

【委員】こういうことがあったらどうしたらいいかという参考の事例集として活用するといいのではないのでしょうか。

(その他)

【委員】NTTdocomoなどがやっているスマホ安全教室等は無料なので活用してほしい。人権教室も1校で実施したが、もっと多く活用してほしい。

【委員】小学校は一日の大半を学級で過ごすので、担任との関係が大切です。担任の力量が重要だと思います。担任間で力量の差がないようにしてほしい。

【委員】保護者としては、校長先生などに「〇〇してください」と苦情として言うのではなく、困っていることを伝え、共有してもらいたいのではないのでしょうか。

5 事務連絡

6 閉会（副委員長）